

新宿区教育委員会会議録

令和元年第5回定例会

令和元年5月8日

新宿区教育委員会

令和元年第5回新宿区教育委員会定例会

日 時 令和元年5月8日(水)

開会 午後 2時00分

閉会 午後 3時00分

場 所 新宿区役所6階第4委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	酒 井 敏 男	教育長職務代理者	菊 田 史 子
委 員	今 野 雅 裕	委 員	古 笛 恵 子
委 員	羽 原 清 雅	委 員	星 野 洋

説明のため出席した者の職氏名

次 長	村 上 道 明	中央図書館長	佐 藤 之 哉
教育調整課長	齊 藤 正 之	教育指導課長	長 田 和 義
教育支援課長	内 野 桂 子	学校運営課長	菊 島 茂 雄
主任指導主事	小 林 力	統括指導主事	波多江 誠

書記

教 育 調 整 課 主 査	平 明 生	教 育 調 整 課 係 長	勝 山 雄 太
---------------	-------	---------------	---------

## 議事日程

### 議案

日程第 1 第 17 号議案 新宿区社会教育委員の辞職の承認及び委嘱について

### 報告

- 1 令和 2 年度使用新宿区立小学校教科用図書採択における審議委員会委員について  
(教育指導課長)
- 2 令和 2 年度使用新宿区立中学校教科用図書採択における審議委員会委員について  
(教育指導課長)
- 3 平成 30 年度新宿区学力定着度調査の結果分析等について (教育指導課長)
- 4 新宿区立図書館サービス計画について (中央図書館長)
- 5 その他

---

◎ 開 会

○教育長 ただいまから、令和元年新宿区教育委員会第5回定例会を開会します。

本日の会議には、羽原委員が遅れてお見えになる予定ですが、定足数を満たしております。

本日の会議録の署名者は、今野委員にお願いをいたします。

○今野委員 はい。

---

◎ 第17号議案 新宿区社会教育委員の辞職の承認及び委嘱について

○教育長 それでは、議事に入ります。

「日程第1 第17号議案 新宿区社会教育委員の辞職の承認及び委嘱について」を議題とします。

ここでお諮りします。

「報告1 令和2年度使用新宿区立小学校教科用図書採択における審議委員会委員について」及び「報告2 令和2年度使用新宿区立中学校教科用図書採択における審議委員会委員について」は、教科用図書を審議する審議委員会の委員に関する案件で、委員が外部からの干渉や圧力を受け、率直な意見交換や意思決定の中立性が損なわれるおそれがあるため、非公開による報告をお願いしたいと思います。

報告1及び報告2について、非公開により報告を受けることに御異議ございませんか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。御異議ございませんでしたので、非公開により報告を受けるものとします。

ただいま、羽原委員が御出席でございます。

それでは、第17号議案の説明を教育調整課長からお願いいたします。

○教育調整課長 それでは、第17号議案 新宿区社会教育委員の辞職の承認及び委嘱について御説明いたします。

お手元の議案書をごらんください。

社会教育委員につきましては、令和元年5月8日付で勝沼康夫、鶴巻小学校長、及び大塚光男、元四谷中学校地域協働学校運営協議会代表のお二方の辞職を承認いたしまして、5月9日付で、山貝正海、愛日小学校長、並びに酒井ふさ子、四谷中学校地域協働学校運営協議

会代表のお二人に委嘱をするものでございます。

任期につきましては、前任者の残りの期間となります、ことし令和元年12月5日までとなっております。

なお、参考までに、今回の変更後における社会教育委員の一覧を添付してございますので、後ほどごらんください。

第17号議案の提案理由ですが、新宿区社会教育委員の辞職の承認及び委嘱をする必要があるためでございます。

以上で説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○教育長 説明が終わりました。

第17号議案について、御意見、御質問があればお願いいたします。

いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 御意見、御質問がなければ、討論及び質疑を終了いたします。

第17号議案を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 ありがとうございます。第17号議案は、原案のとおり決定いたしました。

以上で、本日の議事を終了いたします。

---

○教育長 次に、事務局から報告を受けます。

まず、報告1及び報告2について非公開による報告を受け、質疑を行います。

傍聴人の方は、恐れ入りますが、ご退室をお願いいたします。

[傍聴人退席]

午後 2時09分再開

---

◆ 報告 3 平成30年度新宿区学力定着度調査の結果分析等について

◆ 報告 4 新宿区立図書館サービス計画について

○教育長 次に、報告3及び報告4について報告を受け、質疑を行います。事務局から説明をお願いいたします。

○教育指導課長 それでは、報告の3番、新宿区学力定着度調査の結果分析の概要と改善策等について、報告をさせていただきます。

調査は本年1月10日に実施いたしました。

調査の目的は、学習指導要領に示されている各教科の目標や実現状況を経年により把握し、個々の児童・生徒の学力向上を図ること、また、学校は結果を分析し、指導方法等を見直し、指導の改善を図ること、そして児童・生徒一人ひとりの学習の改善を図ること、これらを目的として実施をしております。

それでは、報告3のA3判の資料をごらんください。

初めに、小学校についてです。

小学校は、国語と算数について、小学校2年生から6年生までを対象に実施しました。左上に、分析項目の説明を示しています。正答率は、設問に対し児童・生徒が正答した割合を示したものです。標準スコアは、全国値の平均正答率を50としたときの換算値となります。目標値は、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したものです。前年度の同傾向の問題における全国平均値を加味して算出・設定したもので、難度が高い問題ほど目標値の設定は低くなっております。達成率は目標値と同程度以上であった児童・生徒の割合を示したものとなっております。

それでは、結果の全体表1をごらんください。

結果については、経年で比較するため、標準スコアで整理しました。この標準スコアは、先ほども説明しましたが、50を上回っていれば相対的に良好とされています。

例えば、国語の6年、平成30年度は51.1、平成29年度は、この学年、5年生になります。そのときの値が52.2、さらに平成28年度、そのときは53.0となります。このように縦にごらんいただきたいと思っております。

結果につきましては、小学校は全ての学年で50を超えております。

続いて、全体表の2をごらんください。右隣となります。

各学年の新宿区の正答率と目標値が示されています。全ての学年で目標値を上回っております。

小・中学校共通の改善策は、後ほど説明をさせていただきます。

一つ下にいきまして、小学校の概要についてです。

資料の構成としましては、各教科を左から結果、そして丸については特徴を、三角印につきましては、課題を表現させていただいております。そして、中央にデータとして、正答率や正答率の度数分布、観点別レーダーチャート等を示しています。そして、右側には改善策例として、今後、学校が具体的な取り組みのヒントになる例を示しております。

それでは、国語についてです。国語は、全体表1・2や、グラフの1にもありますように、どの学年も標準スコアが50を超え、目標値を4ポイント以上、上回っています。

表1にあるように、達成率はどの学年も全国平均を上回り、第6学年が最も高い結果となりました。

グラフ2にあるように、第3学年はやや学力分散型の傾向が見られました。

表2にもありますように、観点別でおおむね全国平均正答率を上回っています。第3学年の「読むこと」は、全国平均を6.4ポイント上回っておりました。

改善策例としましては、文章を書く際に、読み手を明確にして相手意識を持たせること、書く目的を明確にするものの2点を重点に置き、指導することなどを示しております。また、日常から国語辞典の活用についても示しております。

次に、小学校の算数です。全体表の1・2やグラフ4にもあるように、どの学年も標準スコアが50を超え、目標値も3ポイントほど上回っています。

表3にありますように、達成率はどの学年も全国平均を上回り、第2学年が最も高く、全国平均を16.4ポイント上回っていました。

グラフ5にあるように、第5学年は学力分散型の傾向が見られました。

表4にもありますように、各観点でおおむね全国の平均正答率を上回っています。第5学年の「思考」は、全国平均を6.8ポイント上回っていました。

改善策例としましては、純小数同士の乗法の指導において、小数点の位置など、個々の児童の理解に応じて原因を探り、繰り返し指導することを示しています。

また、文章題においても、答えが幾つぐらいになるか見通しを持たせて計算することについても示させていただいております。

1枚おめくりください。次に、中学校についてです。

中学校は、国語、社会、数学、理科、英語について、中学1・2年生を対象に実施しました。同様に、左上の結果の全体表3をごらんください。結果の概要ですが、2学年の結果を見ますと、数学を除き、標準スコアが上昇しておりました。

それでは、各教科を見ていきます。まず、国語です。区の平均正答率は全体表4にありますように、目標値を上回っています。また、観点別レーダーチャートにもありますように、読む能力が全国平均を上回っていました。正答率度数分布を見ると、正規分布の傾向が見られました。

改善策例としましては、単語の性質や働きも含めて理解させるよう指導することなどを示

させていただいております。

続いて、社会科です。区の平均正答率は、目標値を下回っています。正答率度数分布を見ますと、学力分散型の傾向が見られました。資料活用の技能については、第2学年で前年比4.0ポイント上昇しました。

今後の改善策例としましては、飢饉や買い占め、打ちこわしが起こる過程を理解させるとともに、これらについて生徒自身がみずからの表現で説明できるような学習を取り入れることを示しています。

続いて、数学です。区の平均正答率は各学年とも目標値を上回っています。正答率度数分布を見ると、学力分散型の傾向が見られました。観点別平均正答率では、第2学年で数学的な見方や考え方は2.3ポイント、全国平均を上回っています。

改善策例としましては、1次関数のグラフの特徴を押さえること、表・式・グラフの関係性を理解することなどを示しております。

続いて、理科です。区の平均正答率は、各学年とも目標値を下回っております。正答率度数分布を見ますと、学力分散型の傾向が見られました。観察・実験の技能は、第2学年で目標値を1.8ポイント上回っています。

今後の改善策例としましては、凸レンズの実験で像を確認する際、ろうそくだけではなく、風景を取り上げ確認をするなどを示しております。

最後に、英語です。区の平均正答率は、各学年とも目標値を上回っています。正答率の分布を見ますと、学力分散型の傾向が見られました。第2学年では、外国語理解の能力が9.8ポイント上回っていることを初め、全項目で全国平均を上回っています。

改善策例としましては、与えられたテーマで話題を1つに絞り、具体的に書き足していく練習を積ませるなどを示させていただいております。

以上が、結果と改善策例となります。

恐れ入りますが、もう一度、1枚目にお戻りください。

中段に、小・中学校共通の今後の改善策としまして、6点挙げさせていただいております。

1つは、各校の実態分析に基づく組織的な対応の充実、2つ目が学力向上のための重点プランの作成。各学校には、自分の学校の調査結果として、一人ひとりの回答結果、学級・学年の結果を分析し、学力向上のための重点プラン、こちらを5月10日までに作成するよう依頼をさせていただきます。この学力向上のための重点プランは、調査結果等に基づき、明らかになった課題を解決するための具体的な授業改善策や重点的な取り組みを、学校として作成す

るものとなっております。

3番目が、指導方法や学習習慣の見直し。

4番目が、各学年の習熟の状況を把握する。

5番目が、フォローアップワークシートの計画的な活用。

そして最後に、学習指導支援員等の連携による個別指導の充実を挙げさせていただいております。

今後の取り組みとしましては、教育委員会では2月26日に新宿区学力定着度調査の事後説明会を開催し、今回の結果の概要を既に伝えております。この後、5月の定例の校園長会、それから副園長会で、この結果について改めて報告をさせていただきます。

また、各学校が提出した学力向上のための重点プランの確認を行うとともに、学校訪問や第三者評価等によって、各校の学力向上のための重点プランの実現状況を確認してまいります。

以上で、新宿区学力定着度調査の結果分析等について、報告を終わります。

○中央図書館長 それでは、報告4、新宿区立図書館サービス計画について御報告いたします。

1枚目の資料をごらんください。

このサービス計画は、図書館基本方針を達成するために策定するものでございます。

1の主旨でございます。この計画は、基本方針の使命である『区民にやさしい知の拠点』として、図書館の資源である施設、資料、職員の3つを最大限活用してサービス提供するため、毎年策定、公表しているものでございます。

そのサービス計画でございますが、別紙1が概要版で、別紙2がその本体でございます。

別紙2をごらんください。

1枚おめくりください。右側のページに目次がございます。大きく3つの内容に分かれてございます。

まず、計画の基本的な考え方、次に、そのサービス計画本体、それから最後に各図書館の実績と数値目標という形で、目次を構成しております。

もう一枚おめくりいただきまして、1ページをごらんください。計画のサイクルでございます。

毎年策定する計画を点検・評価し、翌年度の計画に反映させるサイクルをあらわしているところでございます。

(3)の計画の構成でございます。

下の黒ポチで全館共通取組み事業、各図書館の主要事業、各図書館の詳細事業という3つの構成にさせていただきます。

1枚おめくりして、4ページをごらんください。

図書館サービス網をあらわしてございます。

オレンジの図書館が月曜休館、青の図書館が火曜休館ということで、お近くのどちらかの図書館では開館しております。また、学校等への団体貸出、本の読み聞かせ等のイベント、それから、図書館に来ることが困難な方への家庭配本などの事業もあわせてあらわしてございます。

5ページをごらんください。

先ほどの1つ目の全館共通取組み事業でございます。5つございます。

まず、①の夏目漱石関連事業については、各図書館で展示やイベントを行ってございます。

6ページは、②のオリ・パラ関連の事業でございます。

7ページをごらんください。

③区の各部署との連携事業でございます。

8ページは④地域団体等との協働事業でございます。

次の9ページをごらんください。

⑤調べ学習への支援ということで、全館で共通で行っているものでございます。

10ページをごらんください。

全図書館の実績と数値目標でございます。

今年度は、5つの新規項目がございます。上から、区内在住者の新規登録者数、区内在住者の利用登録率、それから4つ下のレファレンス満足度については、利用のしやすさと回答の満足度がございます。最後に、一番下のホームページのアクセス数という5つが新規でございます。

下段に各項目の定義が記載されてございます。

また、少し飛びますけれども、53ページ以降に各図書館の実績が載ってございます。

次に、11ページでございます。各図書館の主要事業の見方を掲載してございまして、それに基づいて13ページをごらんください。

中央・こども図書館でございます。上の吹き出しのところに、ここでは中央・こども図書館の特徴をあらわしております。

各表の右側の欄には、33ページ以降の詳細計画の該当ページと項目番号が記載してござい

ます。

また、その右に白い星印がついているものがありますけれども、これは先ほどの5ページから9ページの全館取組み事業をあらわしてございます。

33ページ以降に詳細計画がありまして、35ページをごらんください。

一例として四谷図書館でございます。指定管理である地域図書館では、上部の米印のところに記載のとおり事業提案の指定事業がございまして、黄色でお示ししているものがその指定の提案事業でございます。

先ほど申し上げたとおり、53ページ以降が各図書館の実績と数値目標でございます。

なお、この計画は、まだ一部に表現の不統一等が見られるところがございますので、早急に修正していきたいと思っております。

1枚目の資料にお戻りください。

今後の予定でございます。5月下旬の文教子ども家庭委員会に報告し、その後、冊子を配付して区のホームページに掲載する予定でございます。

説明は以上でございます。

○教育長 説明が終わりました。

それでは、報告3について御意見、御質問あれば、お願いいたします。

いかがでしょうか。

○今野委員 1枚目の小学校のほうですけれども、全体表1をざっと見ると、これは標準スコアなので縦横で比べやすい数字だと思うんですけれども、国語にしても算数にしても、学年が進むにつれてスコアが低くなる傾向が如実に見られる感じがあるんですけれども、これはどういうふうに考えたらいいのかなと。学年が上がるにつれて、標準スコアとしてはこういうふうに出てきているんですけれども、どういうふうに考えたらいいのかなというのが1点です。それから2枚目の中学校のほうですけれども、従来から社会と理科が弱いということで、これまでも議論があったと思うんですけれども、今回の標準スコアを見てみますと、社会・理科ともに、特に2年生のところを見てみますと、こちらは成績が上がってきているんですね。いろいろと議論がある中で、担当の先生方が頑張っていた成果なのかなと思ったりもします。そのあたり、標準スコアの経年の変化の見方ですね、どういうふうに見たらいいのかなと思われましたので、その点を質問したいと思います。

それから、あとは要望ですけれども、いずれにしても、この区の学力定着度調査はそれぞれ学校現場で、特に中学校ですと、各教科にわたって毎年やる調査ですので、指導の成果な

り課題を学校ごとに、あるいは教員ごとに理解できる資料になるはずだと、こういうふうなことも導入のときに大きな目標になっていたわけで、教育委員会全体でもいろいろな分析をやられているわけですが、やはり学校・教員が、それを指導に活かすことができるような分析なりが必要だと思います。

先ほどの御説明で改善策、つまりきちんと個別に対応させて重点プランをつくったということで6項目きちっとできているわけで、これがちゃんとできていけば着実に成果が上がっていくのではないかと期待するわけですが、形式的にならずに、ぜひ、実質的にこの調査が現場で次の改善に向けて利用されるようにしていただきたいなと思います。これは要望だけでございます。

以上です。

○教育指導課長 御質問いただきました、標準スコアの見方についてですが、御指摘いただきましたとおり、前の学年よりも次の学年、そしてその次の学年ということで、残念ながら数字だけを見ていきますと、低くなってきているというのは事実だと思っております。ただ、これは区全体の数値としてはこういう形で出てきているわけですが、学校単位、あるいは個々の児童・生徒に注目していきますと、伸びている児童・生徒も当然いるということで捉えております。区全体としましては、学年が進行すると同時に何かスコアが減ってきているというような現実はあるところです。実際、そこがどのあたりの課題かというところは、分析をしているところでございます。

それから、社会科、理科についての取組ですが、昨年度、理科教育推進委員会で、特に理科の実験を重点的に取り組んでいこうということで、中学校でも取組を進めてきました。その結果、今回、実験に関するところについては数値が上がるなど、取組の成果が見えてきているものと捉えております。

また、社会科と共通しているところもあるんですけれども、子どもたちの解答の状況を見ますと、同じ内容でもその出題の方法を変えることによって、正答できる場合とできない場合があるよだということを、社会科であつたり理科の中では分析をしているところでございます。日頃から、子どもたちに多角的な視点で物事を見る見方、そのようなところをこれからも繰り返し進めていく必要があるというふうに考えてございます。

そして、各学校での活用状況といったところにつきましては、今回、共通の改善策というところでもお示しをさせていただいておりますが、子どもによってつまずきの場所、程度も違いますので、そうした一人ひとりの子どもに合った形での、例えばフォローアップワーク

シートなどを活用して、学校での補習等に活用いただいているところです。今後、学校訪問等でそのあたりの実践や成果については学校ごとに見させていただければと考えております。

○教育長 よろしいでしょうか。

○今野委員 はい。

○教育長 ほかにございますでしょうか。

○羽原委員 この小学校・中学校の改善策例の欄を見ていると、これは設問の問題もあるかとは思いますが、全国正答率から10%も低いところもあるし、平均的な数値からやたらに低いなど。ほかの項目で点数をとっているから、埋め合わせて全体としては平均よりはちょっと超えているということなのかと思いますけれども、設問によってはここまで、全国の平均あるいは目標値と、ここまでかけ離れているというのは、どういうことなのでしょう。

○教育指導課長 例えば国語の第3学年の2つ目の改善策例でお示ししている「言葉の学習」については、本区の正答率が35%でございました。こちら、全国の正答率が29.5%、目標値は50%となっております。この目標値というのは、このテストを作成している会社がおおよそ10万人程度の規模で実施をしていて、これぐらいは期待したいということで設定されているものですが、その難易度が年度によって少しずつ変わってくるものと捉えております。ある程度の標準性は担保されているとは思っておりますが、目標値はあくまでもこの試験を作成する側で設定したものでございまして、目標値がそもそも50%というのは、この問題については難易度が比較的高いものということで設定しているものと捉えております。

その結果、新宿区では35.0%、全国ではそれよりもさらに下回って3割に満たないような結果となっている状況がございます。

○羽原委員 いい事例を挙げて言えばそういうことなんだけれども、例えば5年生の小数の掛け算、これは目標値と全国の正答率はほぼ同じ90%前後であるが、新宿区は10%低いという、こういう大きな格差が出てくるのは何なのだろうかと。つまり、小数の掛け算は基本的な部分でしょう。だから、これができていないということは、ほかの項目の問題は解けているのかなと。なぜこれだけがこういうふうに低いのかということです。中学校のほうでも、10%ぐらいの開きがあるものがありますけれどもね。目標値の性質は、それはそれでわかりますけれども、そのあたりについて、授業内容との乖離なのか、あるいはその問題はまだ取り上げていない部分が出題されてしまったということなのか、その辺をちょっと教えていただければと思います。

○教育指導課長 ただいまの第5学年の問題についてですが、設問としては、具体的には0.3

掛ける0.7というものでした。こちら、高い正答率を期待して目標値も90%、また全国平均も9割を超えているようなところですが、本区におきましては81.5%という結果であったというところ。こちらにつきましては、小数点の位置どりであるとか、そのあたりが十分に理解されていないお子さんが一定数いるというところが原因かと思われま

す。このあたりの基本的なところができていないということは、文章題などになると、そのあたりが反映されてしまうかと思

○羽原委員 小数の掛け算というのは極めて基本的なことで、これができないと幾ら先へ進んでも伸びないだろうなという気がするのと、中学校については、これはやはり関心の持ち方の問題で、例えば理科の2年生。日本の気象のところの全国正答率75.8%に対して、新宿区の正答率が47.6%というような、格差が大きい問題について、なぜここまでの差が出るのかなど。つまり新宿区の平均点が非常に低かったということですよ

ね。全体が低いということは、新宿区の理科の教育の手順が悪いからなのか、きちんとできていないのか、あるいは何か別の理由があるのか。ちょっと差が開き過ぎなんじゃないかと思うんですよ。全体の点数は全国より少し上回っているということだけでも、そういう認識だけでいいのかなど。つまり、ある部分の問題について弱い、このことをどういうふうに授業で乗り越えていくのか。

先ほど、一人ひとりフォローをとおっしゃっていたけれども、そういう問題なのかなど。もうちょっと構造的な問題はないのか、そういう印象がありましたので伺いたいんです。

○教育指導課長 御指摘のように、今回、その理科の問題につきましては、小笠原気団というところを答えさせる問題なのですが、言葉は理解していても、与えられた条件の中でその小笠原気団というものが答えられなかったというところについて、何らかの原因があるというふうに考えております。

聞き方によって正答できる場合と、できない場合とがあるというところが、社会科についても同じ傾向が見られておりまして、やはりまだ十分な理解というところには至っていないかと思

○羽原委員 授業を見せてもらったの印象なんですけれどもね。都会の子どもたちは非常に物に接触しているから、ある程度理解度はあると思うんですよ。ただ、生活になじまないようなところが非常に弱いのではないかな。つまり、授業でもうちょっと生活に根差したところの誘導があればと思う。社会科の一揆の話をごちの学校で見ていると思ったんですけれどもね、自分たちの生活には関係がないというか、昔ながらに暗記すればよろしいというような、そんな感じがあるのではないかな。何百年も前の人たちが、農民一揆というものを戦ってきて今日の社会があるというような、その当時と現在との社会構造の関連性。あるいは君らの生活にとってこういうことが昔はあったが、今はこうなっているというような、何か身近なところから考えていったり、データを読み取るというようなところ。理科とか社会はそういった取っかかりがたくさんあり過ぎてしまって、教科書の単元ごとの知識だけで済ませているんじゃないかなと、授業を見ている時々感じていたんですけれどもね。

簡単ではないし、一人ひとりの先生の指導方法の違いもあるだろうけれども、もうちょっと生活に根差すような観点がないと、特に社会科なんかは上っ面で終わってしまうんじゃないかなと。歴史というのは、過去、現在、未来とつながってくるわけだけれども、今につながってこないような授業の持ち方、そこに少し問題があるんじゃないかなと、時々感じるんですけれどもね。

○教育指導課長 委員御指摘のとおり、やはり実生活との関連をしっかりと持たせて指導していくという視点が大事になってくると思いますので、この点につきましては、繰り返し学校に対して指導をしていきたいというふうに思います。

○教育長 よろしいでしょうか。

それでは、私からも。羽原委員と多分同じような問題意識だと思うんですが、まず気になるのは、中学校の国語の2学年の問題で、問題をつくる側の正答率の目標値が30%。目標値が30%という問題を出題することの必要性については、改めて確認をいただきたいと思いません。新宿区の学力定着度調査のねらいは、個々の児童・生徒の学力の向上を図ることであって、学校での指導方法の改善なんですよね。あえて難易度の高い問題を出すことは、児童・生徒のやる気をなくさせる恐れもあるし、学力定着の正確な把握が難しくなるのではないのでしょうか。学力定着度調査の標準性を担保することは必要だとは思いますが、生徒が学習した成果が定着度として結果に反映されることが大切なのであって、あえて難易度の高い問題を出すことが本当に必要なかどうか。この妥当性については、確認をしてほしいと思います。

それからもう一つ。改善策例というのは、まとめた記載になっているから、実態は各学校によって相当違うと思うんですよ。羽原委員のおっしゃった気団の問題だと、目標値の75%に対して47.6%とあるけれども、これはおそらく学校によっては70%が答えられた学校もあれば、20%ぐらいの学校もあってこういう数字になっていると思うんですよ。この改善策例は全体を丸めた話ですけども、各学校の改善策例についてはよくよく御指導いただいて、具体的な取組になるように。教えると言っても、過去にやった授業をもう一度やり直すわけではないんでしょう。あるいは、もう一度、部分的に授業をやり直すんですか。

○**教育指導課長** 授業そのものをやり直すということはないです。ただ、できなかったところについては、関連項目として補足するような、そういった手だてはとれると思いますので、理科の中においても、そういった形で配慮していくことは可能だと思っています。

○**教育長** 個別の学校ごとの問題は大きいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○**教育指導課長** 先ほど、このテストの目標値の数値について教育長からの御意見をいただいたところですが、出題する業者に確認しましたところ、平均が大体60%になるように全体を調整しているというなお話でした。

過去に課題が大きかったものについては、あえて意図的に、継続して出題しているということもありますが、先ほど御指摘いただいたような、正答率が極端に低いものを出す必要があるのかどうかということについては、改めて業者側とは協議してまいりたいと思います。

○**教育長** よろしくお願ひします。

ほかに何かありますでしょうか。

○**星野委員** 羽原委員のお話を聞いていてふと思ったんですけど、我々が子どものころというのは、学校以外の、家庭で暇な時間に何をやっていたかということ、いろいろな本を読んだり、テレビを見るにしてもいろいろな分野の番組を見ていました。それが今の子どもたちということ、家へ帰るとゲームばかりしていて、そういうもので偏った情報しか入れ来ないと思うんですね、あくまで僕の周りの人を見ての話なのですけれども。そうすると、ものに対する興味が偏ってしまって、まったく興味のないものに関しては授業を受けても興味がわかないし、そういったことが成績の偏りなどに出てきているのではないかと思ったので意見を言わせていただきました。

○**教育長** ご意見ということで、よろしいですか。

○**星野委員** はい、いいです。

○**教育長** ほかに何かございますでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 それでは、報告3の質疑を終了いたします。

次に、報告4について御意見、御質問があればお願いいたします。

○今野委員 8ページの④というところで、「図書館を応援する地域団体等との協働事業」と書いてありますけれども、実際にやってくれている団体というのは大学だったり地域のボランティア団体だったり一般的なものなので、必ずしも図書館を応援する地域団体ではないので、書き方の問題ですけれども、特になくてもいいか、あるいは他に適切な修辭語があるのかわかりませんが、図書館を応援する団体というところまでは言わなくてもいいんじゃないかなと思いました。

それから、10ページですけれども、これも表現だけです。一番右側の「令和元年度目標」欄の記載ですけれども、一部、斜めの黒い矢印で記載されていて、上昇させることが目標だということなんでしょうけれども、目標の欄に矢印の記載というのが何となく変なので、「30年度より高めること」とか、あるいは「4.5以上」とか、何か普通の書き方で記載できないかと思いました。

それからもう一つ。13ページの中央図書館の説明のところなんですけれども、中学校の校舎を改築した建物を活かし、放課後を思わせる図書館を目指します、とあります。確かに中学校の校舎をそのまま使っているので、中に入ると、学校の建物の中にいる感じがするんですけれども、放課後を思わせることを目指さなくてもいいんじゃないかなと思います。図書館ということで、放課後を思わせることを何かプラスのイメージに置きかえてやっている、今までもそういうふうに出てきたのかもしれないですけれども、改めて読むと、区の中央図書館がたまたま学校の校舎を今使っているからなんだと思いますけれども、そこまで言わなくてもいいんじゃないかという気がしました。

以上です。

○中央図書館長 8ページの「応援する」という記載につきましては、確かに委員の御指摘のとおりかなという気もいたしますので、検討の上、削除できるならば削除していきたいと思っております。

10ページの矢印につきましては、今よりは上げるというようなイメージで矢印にしたところでございますけれども、御指摘のとおり少し違和感があるという部分もございますので、数値や文言で表せるよう、検討していきたいと思っております。

13ページにつきましては、放課後を思わせるというのは確かにやや中学校だということを

強調し過ぎている面もありますので、親しみやすいですとか、そのあたりについても検討していきたいと思っております。

○**教育長** よろしく申し上げます。

○**羽原委員** 今野委員のおっしゃった点、僕も伺っていてそう思ったんだけど、学校の授業とは全く別の世界としての図書館、このほうが子どもにとっては自由な世界を持てるような気がして、あえて放課後としないほうがいいと思う。

それと、新宿歴史博物館で埋蔵文化財の展示を今やっていて、2回ばかり長時間見に行っただけだけど、非常に幅広く、解説もよかった。つまり、図書館は夏目漱石については大分工夫はしているんだけど、歴博であるとか林芙美子記念館、中村彝アトリエ記念館とか、ああいうものとのリンク、これをもうちょっとうたい込んでもいいんじゃないかなと。今すぐ計画に記載するという意味じゃなくて、来年度からでも、何か地域にある区の施設的なものとのリンクをイベント的に組み合わせるような、もうちょっと関係プレーがあったほうがいいんじゃないかなと。

それからもう一つ、これはやっておいたほうがいいだろうと思うのは、地域の商店のマップね。これは三、四十年前の個人商店がずらっとあったような町並みはもうすっかり変わって、いろいろなコンビニが並んだり、シャッターが下りたままの店舗がでてきたりとかね。本来は学校の社会科でやったほうがいいんだけど、毎年、その学校のある地域のマップをつくる事業を、ぜひやったほうがいいと思う。これは毎年ためていくと、30年後、50年後にすごい資料になる。今、そういうものってないんですよ。神楽坂のマップを復元したものだったり、あるいは鶴巻町だったり、ところどころにあるけれども、これはまちの変化を記録するには、子どもたちが一番やりやすい作業だと思うんですよ。もし図書館にそういう郷土史的な危惧があって、図書館でやれるというなら図書館でもいいけれども、エリアが広いから、僕は小学校の何年生かが継続的な取組としてやって、蓄積していくことが非常に重要だと思っているんですけどもね。割と気になっていることの1つだから、今申し上げているんですけどもね。学校のほうでも、もし社会科の授業でそういう継続性のある取組ということが可能なら、ぜひお願いしたいと思います。ぜひ、どこかで話をしてください。

○**中央図書館長** 図書館は学校とは違う建物、施設ということで、また学校図書館とも違いますので、そのあたり、公共図書館としてしっかりとやっていきたいと思っております。

また、歴博だけではなく、区内には博物館などいろいろな施設がございますので、今後、そうしたところともしっかりと連携して事業を組めるようにやっていきたいと思っております。

す。

それから、商店のマップ、地域のマップにつきましては、事業として企画を模索していきたいと考えてございます。

○教育長 よろしいでしょうか。

図書館の周辺にある小さな民間の博物館であるとか、そういうを紹介するだけでも随分違うと思います。新聞に取り上げられるとお客さんが来るのだけれども、取り上げられて1カ月もたつと誰も来なくなるという話も聞いています。

○中央図書館長 1枚目の資料、今後の予定についてでございます。資料上は5月28日と書いてございますが、日程はまだ正式には決まってございませんが、この後、文教子ども家庭委員会で報告したいと思っております。

○教育長 わかりました。

では、他に御意見なければ、報告4についての質疑を終了させていただきます。

---

#### ◆ 報告 5 その他

○教育長 次に報告5、その他ですが、事務局から何かありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

---

#### ◎ 閉 会

○教育長 それでは、以上で報告事項を終了し、本日の教育委員会を閉会といたします。

ありがとうございました。

---

午後 3時00分閉会